



大きな流れに乗って

ベグライテン 代表世話人 関根 和彦

北九州集中豪雨から1週間、未だに局地的な豪雨に見舞われていますが、関東地方は本格的な夏を思わせる暑さですね。仕事や家事に、学びに活動に、忙しい毎日をお過ごしかと存じますが、お体だけは十分に気を付けてお過ごしください。通り一遍なご挨拶ですが、心からお見舞い申し上げます。

この7月、日本の国民にとっては、とても喜ばしいことが二つありました。

一つ目は、何と言っても、核兵器禁止条約が122か国の賛成を得て採択されたことです。残念ながら米国などの核保有国や北大西洋条約加盟のヨーロッパ諸国、そして日本など核の傘に頼る諸国が退席して交渉に参加しなかったため、実効性が低いなどと言われていたのですが、国連加盟国の三分の二に近い国々が賛成して採択されたことは、核兵器完全禁止への大きな一歩であり、大きな流れが生まれたのだと思います。

60年以上にわたり国連を始め、世界の多くの国々を訪ね、訴えて歩いた被爆者たちの努力が、平和を求め、核戦争の根絶を願う世界の人々の心を動かし、多くの国々の参加を促したのだと思います。私たちも、被爆者にならない地道な努力を積み重ねて、唯一の被爆国であるのに交渉にも参加せず、批准もしないと言い放つ日本の政府を変えて行こうではありませんか。

二つ目は、東京都議選での自民党の歴史的な惨敗です。

なぜ、自民党の惨敗が、日本の国民にとってとても喜ばしいことなのか、言うまでもないですよ。歴代の自民党政府の憲法9条の解釈を一存で変え、国民大多数の声を無視して安全保障関連法(戦争法)を強行採決して成立させ、国民を監視し抑圧するための共謀罪については、参議院での委員会審議をスキップして本会議で強行採決する。このような立憲主義を無視し、憲法や国会法の規定を無視する強権的な政治姿勢、政治手法で、戦争への道をひた走り、「日本を取り戻す」と戦前の日本の体制への郷愁を叫びながら、軍事大国への道を歩もうとする安倍自公政権への不信が現れ始めているからです。

国民の大多数が脱原発を望んでいるのに、再稼働を強行し、多くの国民が沖縄県民の戦いに心を寄せているのに、土人扱いして、辺野古等の新基地建設を強行する。

待機児童、介護離職をなくすと掛け声は勇ましいが、実質的で、腰の据わった対策を取らないから、待機児童も介護離職の増え続ける。自殺者まで出ているのに、長時間、低賃金、過密労働を解消せず、合法化するような働き方改革を行っている。国民の生活の基礎を支える医療・介護・年金など福祉については、部分的な改善はあるものの、全体的には抑制傾向になっている。

国民大多数の生活や要求については、放置、おごなり、抑圧的な態度であるのに、お友達や親友に対しては、森友学園、加計学園に見られるように、行政に斡旋し、圧力をかけ、誘導して便宜を図っている。途中で不都合が生じると、行政や担当の腹心の責任にして、自分は関係ないと開き直る。不利な書類は存在しない、処分したと隠ぺいを図る。自分に刃向かう者が出来ようものなら、切り捨て、誹謗中傷し、社会的信頼の失墜を図る。

国民は、このような安倍政治の赤裸々な姿を見て、安倍を辞めさせよう、別な人にやらせようと、動き始めたのだ。大きな流れが、動き始めたのだ。安倍一強から、潮目は変り始めた。最近の世論調査では、どの調査でも、安倍内閣の支持率は30%台、不支持率は50%前後となっている。

しかしあれほどの惨敗を喫し、反省を繰り返していたのに、安倍政権は少しも変わったようには見えませんね。

10日に行われた閉会中審議、証人喚問でも、安倍首相以下渦中の人物の多くが出席しない中で、前川前次官の証言を否定し、自分たちの言い分を繰り返し、平行線に持ち込んでしまえばそれで良いという態度が露骨に出ていました。

このような状態を改善するには、私たち一般市民が立ち上がり、自公で3分の2を占める状況を改めるしかないのではないのでしょうか。

人間に関わる全ての事柄は、ケアと公共の要素を持っているので、ケアの哲学と公共哲学を学び、身につけて、毎日の生活に生かして行けば、自らの人生を豊かな実りあるものにできると同時に、すべての人が豊かな実りある人生を送ることができる社会を築いて行くことができる…ベグライテンは、このように考えている人の集まりです。

第2次安倍政権が成立して以来、安倍自公政権が進めてきたことは、特定機密保護法といい、安全保障関連法といい、共謀罪といい、すべて海外に出てまで戦争をするための法制であり、ケアの哲学から考えても、公共哲学から考えても、全く許容することのできない政策なので、ベグライテンはこれらの政策について学び、抗議行動・集会にも参加してきました。

ケアの哲学というのは、他者を大切にする姿勢、態度、考え方、生き方を言うのだと思いますが、他者を殺しに行く戦争とは全く相容れない、正反対なものであると思います。また、戦争のために多くの予算、人、モノが動員されるようになれば、ケアを実現するための予算、人、モノが、その分大きく削られてしまいます。

公共哲学というのは、簡単に言えば、立憲主義のことであり、憲法のことですから、国会での多数を頼んで、国民大多数が反対している原発推進政策、海外派兵を強引に進めることは、公共哲学が教えるところを真正面から否定していることとなります。

ケアの哲学や公共哲学が教えるところをすべて否定してくるのですから、ベグライテンとしては、安倍自公政権に反対し、退陣のための行動に参加しないわけには行かないではありませんか。

行動・集会への呼びかけをするたびに、少しずつ参加人数も増え、色々な形で参加されている人たちも増えているので、微力けれども、無力ではないと、確信を深めてきました。また、このようなベグライテンの活動もあってこそ、秋葉原でのやめろコール、帰れコール、都議選での自民党の歴史的惨敗、読売新聞での安倍内閣支持率30%台、不支持率50%台につながってきているのだと思います。

安全保障関連法以来のベグライテンの活動は、公共に偏り過ぎているという声も出てきたので、緩和ケア病棟などの訪問活動を強化したり、今年3月からはノートルダム清心女子大学の崎川修先生にお願いして、ケアの哲学入門の連続講義を始め、好評を博しています。

さらに、公共哲学についても、当面の政治課題の学びだけでなく、基礎から学びたいという声もあるので、近日中に基礎講座を開設できるように準備中です。

これから、盛夏を迎えることとなりますが、適当に休みを取り、体力を整えながら、私たちも、被爆者たちの地道で大胆な行動、生き方に学んで、ベグライテンらしい学びを広げ、深めながら、安倍自公政権退陣に向けた活動に取り組んで行きたいと思います。

◆ベグライテン7月例会のご案内◆

日本社会の現状と課題

【講師】 本田 由紀さん（東京大学大学院教育学研究科教授）

【日時】 7月16日(日)14:00～16:30 【場所】 上智大学 四谷校舎 12号館 3F 302教室

〒102-8554 千代田区紀尾井町7 http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

(JR 中央線・東京メトロ丸の内線/南北線四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩7分)

★日曜日なので、新宿通りに面した門は閉まっています。

正門(イグナチオ教会の隣)か東門をご利用下さい。

【参加費】 千円 (学生・障害のある人 500円) ☆どなたでも参加できます。事前申込不要です。

終了後、講師を囲んでの懇親会にも是非ご参加ください。

(各自が飲食した分だけをお支払い頂く形式です)

【講師からひとこと】

日本社会はいまどのような状況にあるのか、どのような変革や政策が求められているのか。

本講演では、戦後日本社会の変容を把握することによって現状を把握し、求められるマクロな構造変革と、具体的な政策提言案について検討することを目的とします。政策提言の例として、日本学術会議社会学委員会社会変動と若者問題分科会が作成中の提言「若者支援政策の拡充に向けて」を1つの素材とします。

【講師略歴】 徳島県生まれ、香川県育ち。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。日本労働研究機構研究員、東京大学社会科学研究所助教授等を経て、2008年より現職。専門は教育社会学。教育・仕事・家族という3つの社会領域間の関係に関する実証研究を主として行う。特に、教育から仕事への移行をめぐる変化について指摘と発言を積極的に行っている。

【近著】 『若者と仕事』（東京大学出版会）、『多元化する「能力」と日本社会』（NTT出版、第6回大佛次郎論壇賞奨励賞）、『「家庭教育」の隘路』（勁草書房）、『軋む社会』（河出文庫）、『教育の職業的意義』（ちくま新書）、『学校の「空気」』（岩波書店）、『社会を結びなおす』（岩波ブックレット）、『もじれる社会』（ちくま新書）、『「ニート」って言うな!』（共著、光文社新書）、『岩波新書で「戦後」をよむ』（共著、岩波新書）ほか。

【主催】 ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】 上智大学哲学科

【問合せ】 090-9146-6667(関根) ・ ANA71805@nifty.com(入江)

◆ベグライテン セミナーのご案内◆

(連続講座) ケアの哲学入門～共に生きるための姿勢～

◆(第3回) 愛すること と ケアすること◆

「ケア」について考えることは、他者のために何が出来るかを考えることであると同時に、また私たち自身が「自己」を見つめ、いかに生きるべきかを深く考えることに他なりません。ケアは弱者に対する 援助の具体的方法であるだけでなく、いつでも私たちの人間的な「生 LIFE」を作り出す「かかわり」の基本的な姿勢でもあるのです。

この連続講座では、当たり前のように使われている「ケア」という言葉の意味を問い直すところから出発し、それをただ「専門的な技法」としてだけではなく、人間としての「生き方」の問題としても意識できるように、ご一緒に考えて参りたいと思います。

第3回目は、「愛」をキーワードに、ケアの本質に迫ります。愛はケアを生み出す「源泉」だと考えられますが、どんな愛でもケアになるかといえば、そうではないでしょう。愛を通じた「かかわり」の生成を見つめながら、与える愛と受け取る愛、献身と依存のはざまに「生き方としてのケア」のあるべき姿を探ってみたいと思います。

(参考文献：プリント資料を配布する予定です)

【講師】 崎川 修 さん (ノートルダム清心女子大学 准教授)

【略歴】 1971 年 東京生まれ 上智大学大学院哲学研究科博士後期課程満期退学

2009 年上智大学文学部哲学科常勤嘱託講師 (キリスト教人間学担当)

2013 年 ノートルダム清心女子大学人間生活学 部准教 (現在に至る)

専門は現代哲学、人間学、キリスト教倫理。

(共著書)に 『心とは何か』北大路書房、『ニヒリズムとの 対話』晃洋書房、

『教養としての応用倫理学』丸善出版、『ケアを生きる私たち』大学教育出版など。

【日時】 2017 年 7 月 22 日(土) 14:00~16:30

【場所】 上智大学 12 号館 3F 301 教室 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

(JR 中央線・東京メトロ丸の内線・南北線四ツ谷駅麴町口・赤坂口から 徒歩 5 分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

【参加費】 1,000 円 (学生、生保・障害者 500 円)

☆どなたでも参加できます。事前申込は、不要です。☆終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。各自が飲食された分をお支払いいただきます。

【問い合わせ】 関根 090-9146-6667 ANA71805@nifty.com(入江)

【連続講座の流れ】

第 1 回 人間を見つめる～ケアと生の地平～ (3/26 終了)

第 2 回 ケアの問題を考える(5/6 終了) 第 3 回 愛することとケアすること(今回 7/22)

第 4 回 ト라우マの人間学 ～心身との語らい 第 5 回 スピリチュアルケア ～祈りと希望

◆◆聖路加国際病院緩和ケア病棟訪問のお誘い◆◆

同病院のチャプレン ケビン・シーバー先生及び上田憲明先生のご厚意により、訪問が実現しました。両先生のほか、医療関係者から説明、案内があります。

参加したい方は、下記によりお申し込みください。先着順です。

【訪問日時】第1回 7月29日(土) 14:00~16:30

第2回 8月12日(土) 14:00~16:30

【定員】 20名(各回とも先着順です。) 【参加費】 500円(現地徴収)

【訪問内容】 訪問に当たって、次のようにお願いしてあります。

1. 下記についての説明及び質疑応答

- (1) 緩和ケア病棟の設置及び運営の理念
- (2) 施設及び運営体制の概要
- (3) 患者に対する医学的、生活的、心理的なケアとスピリチュアル・ケア
- (4) 家族・特に遺族に対するケア
- (5) スタッフのストレス・ケア
- (6) ボランティアについて。位置付け、体制、教育訓練、ストレス・ケアなど

2. 許される範囲での施設見学

【申込方法】 氏名・郵便番号・住所／携帯番号(当日連絡用)／メールアドレス／

参加希望：第1回、第2回 を書いて、下記申し込み先まで。

申込先 <https://goo.gl/forms/VDQOfxVVd1SLjb2m1> から申し込む。

ファクスによる申込み：03-6435-1173 入江杏まで

問合せは、090-9146-6667(関根)まで

(いただいた個人情報は、名簿化して、病院に提出するほか、本訪問に必要な連絡に使用します。それ以外の目的に使用することはありません。)

【アクセス】 交聖路加国際病院 〒104-8560 東京都中央区明石町9-1 電話 03(3541)5151(代表)

<http://www.luke.ac.jp/>

営団地下鉄日比谷線築地駅下車 (入船橋方面3、4番出口) 徒歩3分

営団地下鉄有楽町線新富町駅下車 (6番出口) 徒歩5分

☆ 聖路加看護大学側から、主聖堂の尖塔を目印に入られると便利です。

病院の2Fにあるチャペル(トイスラーホール)とお間違えにならないようにしてください

◆◆ 花の谷クリニック訪問のお誘い ◆◆

地域で、看取りを含めて住民の健康を守っている花の谷クリニックを訪問します。院長の伊藤真美先生がご説明、ご案内して下さいます。参加を希望する方は、下記によりお申し込みください。

【訪問日時】 8月19日(土) 14:00~16:30

【定員】 20名 申込先着順です。【参加費】 500円(現地徴収)

【集合】 内房線千倉駅前集合

電車・高速バスの時間により13時30分前後。千倉駅よりタクシー相乗りで行きます。

(自家用車で、直接クリニックにお出でになることは可能です。この場合は、その旨ご連絡ください。)

【訪問内容】 訪問に当たって、次のようにお願いしてあります。

1. 下記についての説明及び質疑応答

- (1) 緩和ケア病棟の設置及び運営の理念
- (2) 施設及び運営体制の概要
- (3) 患者に対する医学的、生活的、心理的なケアとスピリチュアル・ケア
- (4) 家族・特に遺族に対するケア
- (5) スタッフのストレス・ケア
- (6) ボランティアについて。位置付け、体制、教育訓練、ストレス・ケアなど

2. 許される範囲での施設見学

【申込み方法】 氏名、〒、住所、電話、携帯を記入し、次の方法でお申込みください。

申込みフォーマット <https://goo.gl/forms/3H9Pz2vUbqI0oSfw2>

Fax による申込み 03-6435-1173 入江 杏 宛て

なお、13:30に、花の谷クリニック内にあるスूपのよろずや「花」*に集合して、食事する(スूपランチ 600円)ことができます。ご希望の方はその旨、併記してお申込みください。集計して、人数を報告しておきます。 * <http://soupnoyorozuya.wordpress.com/>

【問合せ先】 090-9146-6667 関根和彦

【花の谷クリニックへのアクセス】 <http://hananotani.jp>

千葉県南房総市千倉町白子2446 TEL 0470-44-5363 FAX 0470-44-5302

【交通機関】 JR 内房線 千倉駅から 車で5分 (タクシー有) 徒歩 15分

東京方面からの高速バス 「なのはな13号」：東京八重洲南口バス乗り場→千倉駅

ベグライテン憲法カフェ@四ツ谷のご案内

憲法をしっかりと読んだことがありますか？最近政府が打ち出してくる重要法案は、どれも今の憲法にはそぐわない、むしろ戦前の憲法に回帰しようとしているように思えてなりません。国を挙げての大騒ぎになった安全保障関連法を始め、最近問題になった共謀罪(テロ等防止罪)は、明らかに今の憲法を無視しているのではないのでしょうか？とうとう自民党は、憲法9条を改定すると言い出しました。そこで自民党の憲法改正草案と現行の憲法を読み比べながら、憲法を通して読んで、みんなで考えてみたいと思います。

その第3回として、憲法の前文と第3章(基本的人権)のうち共謀罪と関係が深い第13条、第19条～21条を中心に取り上げます。ご家族、友人、知人を誘ってご参加ください。

第1部 ベグライテン 憲法カフェ第2期 第4回

【日時】 2017/7/27 (木) 18:30—20:30 【場所】 東京法律事務所 1階会議室

【アクセス】 JR 四谷駅・四谷口前 (しんみち通り入口横のファミリーマートの隣)

Tel: 03-3355-0611 <http://www.tokyolaw.gr.jp/about/location.html>

【テーマ】 憲法前文と第3章(国民の権利及び義務)の内、第13条、第19条～21条を読んで、話し合う。

(自民党憲法改正草案と現行憲法を対比して読みます。)

【提唱者】 岸 松江 弁護士(東京法律事務所) 森 正樹 さん(ベグライテン世話人)

【司会】 関根 和彦 さん(ベグライテン世話人)・ 【参加費】 1人500円+印刷代(100円程度)。

(参加費は提題者への謝礼となります)・ 飲み物は各自持参してください。

【連絡問い合わせ】 大塩: veu03273@nifty.ne.jp 関根: 090-9146-6667

第2部 ベグライテン安保グループ打合せ

【時間】 20:30—21:30 【場所】 東京法律事務所 1階会議室

【議題】 ベグライテン安保グループの今後の活動について

★★2016年開催の5～6月の講演会・セミナーの報告・感想★★

◇ベグライテン 5月例会(公共哲学を学ぶ会)の報告◇

安倍政権の検証—森友問題と共謀罪を考える—

特定秘密保護法、安全保障関連法から、共謀罪の法案の成立へと、あまりに国会が軽視されている現状が憂慮される中、佐藤学先生のお話を下記要領で聴きました。問われているのは国のかたちであり、社会のあり方だと深く胸に刻んだ時間でした、たくさんのご参加ありがとうございました。

【講師】佐藤 学 さん (学習院大学教授・東京大学名誉教授)

【日時】5月21日(日)14:00～16:30 (13:30 開場) 【場所】上智大学 四谷校舎 6号館 2F 201 教室

【参加費】千円 (学生・障害のある人 500円)

【講師からひとこと】森友学園問題と安倍政権との繋がり、今なお不透明なところが多いが、森友問題は安倍政権の下で起こり、安倍政権の体質と本質を表現する事件であったことは確かである。一方、共謀罪の法案は、特定秘密保護法の成立、安全保障関連法の成立との連続性をもつものであり、日本を「戦争ができる国」から「戦争をする国」へと変える途上として国会審議に突入している。この二つの出来事を中心に安倍政権の体質と本質について検証したい。

森友問題が、ここまで人々の関心を引き、大きな問題に発展したのは、森友学園が極右的な教育を行って安倍政権の人脈の特異なイデオロギーを顕現していたことと、強引な土地買収の疑惑が安倍政権下の官僚の墮落を表現していたからである。また共謀罪の危険性が叫ばれているのも、治安維持法によって戦争へ突入した歴史が再現される危険性があるからである。問われているのは国のかたちであり、社会のあり方であろう。なぜ、このような事態が生じているのか。そして日本の社会と文化と教育は、どう変えられようとしているのか。参加者とともに深く探求し合いたい。

【主催】ベグライテン ミシュカの森 【共催】上智大学哲学科

◇ベグライテン 5月例会の報告◇

「オープンダイアログ」から何を学ぶのか ～実践編～

森川すいめいさんをお招きしての「ベグライテン5月例会 オープンダイアログから何を学ぶか?～実践編」。今回は、慶應義塾大学教職課程センターと、暮らしのグリーフサポートみなとの御協力を得て、慶應大学三田キャンパスで5月28日(日)に下記要領で開催されました。200人近いご参加者を得て、盛況裡に終了致したことを感謝とともに ご報告申し上げます。

日頃、対人援助の学びも、地域のグリーフサポートにおいても「上から下へ」ではなく、「経験を共有から協働へ」と意識しているつもりですが、実際に体験した「ホライズン」(水平)のダイアログは、思いがけず、温かく感情を揺さぶられるものでした。世田谷事件で家族を喪った悲しみから再生を模索する過程で、「Nothing About Us Without Us」(私のことを私抜きで決めない)という思いから、「本人のいないところで本人のことを決めない」という姿勢に惹かれたのが関心を持つきっかけだったオープンダイアログ。その奥深さ、広がりを感じられる「実践篇」はたくさんのご参加者の熱気とともに進行、「他者とはいつも自分の理解を越えたものである(レヴィ

ナス)」としても、他者性ゆえに、対話後に一層豊かな独自の見え方を体得できるようにも感じた貴重なひとときでした。

様々な臨床現場で実践をし始めている方々がこの場に集まり、自らの体験談を語りつつ、耳を傾けたことは、これからのオープンダイアログの可能性を考え合うイベントとして貴重なものになったと思います。

最後は、ケストナーの「飛ぶ教室」さながらに「未来語りのダイアログ」で大教室全員がタイムマシンに乗って一年後にタイムスリップ、また帰還して笑顔を分かち合った2時間半でした。ありがとうございました。
(「ミシュカの森」入江杏)

【講師】 森川 すいめい さん (精神科医) 三井 なおこさん、岩本雄次さん

【日時】 5月28日(日) 14:00~16:30 【場所】 慶応義塾大学 三田キャンパス 西校舎 3F 532 教室

【資料代】 1,000 円 (学生 無料)

【講師からひとこと】 フィンランドの精神医療の中で生まれた対話によるケアの方法が注目されています。診断や処方の前に、対話し対話し続ける。ケアを受けた5年後の国の調査では、7割のひとが就労や就学、またはその準備を行うという結果を得ました。通常の医療では3割に満たない現実があります。本会では、この対話というシンプルな形によってこころの健康が回復する理由を体験し、対話を日常や職場、学校等で活かすことができるようになる場を作ります。

【近著】 『その島のひとたちは、ひとの話をきかない』 (青土社、2016) 当日完売でした。

【主催】 慶応義塾大学 教職課程センター ミシュカの森 ベグライテン

【協力】 暮らしのグリーンサポートみなと

◇ベグライテン 6月例会(公共哲学を学ぶ会)の報告◇

地方自治体の役割と都政の課題について ～ソウル市の改革に学ぶ～

ベグライテン 6月例会(公共哲学を学ぶ会)は下記要領で、93名のご参加を頂きました。詳細なご感想を頂いていますので、そのまま付記致します。

【講師】 宇都宮 健児 さん(元日本弁護士連合会 会長)

【日時】 6月24日(土) 14:00~16:30

【会場】 上智大学 11号館 7F 704 教室 【参加費】 1,000 円

【講師からひとこと】 昨年7月の都知事選で小池百合子都知事が誕生して以来、築地市場の豊洲移転問題を始めとして都政に関する諸問題について、都民・国民の関心が高まっています。また、今年の7月2日には東京都議選が行われます。小池都政の評価、都政が抱える諸課題、日本国憲法における地方自治の位置づけ、注目すべき韓国ソウル市の取り組み、などについてお話しし、地方自治体の役割について一緒に考えてみたいと思います。

【主催】 ベグライテン ミシュカの森 【共催】 上智大学哲学科

ご参加の T さんからのご感想・まとめ

隣の国の首都ソウル市の改革の取り組みをまったく知らなかったことに改めて驚きました。今後、私たちは謙虚に学ぶことや、ヒントを与えられることが多くあると感じました。

また、都民ファーストや小池都政の危うさも感じました。都議選に向けて、小池百合子氏の自民党からの離党届は出されただけで、実は受理されていないこと(6/28時点でも)なども考え合わせ、自分の一票の行方をもう一度よく考えよう、と思いながら帰路につきました。

ご自身の選挙経験や行動の積み重ねから、まったく新しい視点を下さった宇都宮健児さんと、タイムリーな機会をくださったベグライテンに感謝します。

この宇都宮さんのお話は、「地方自治は民主主義の学校」という観点から見て、目からウロコの内容がたくさんありました。忘れないように、と、私が取った個人のメモは概略で以下の通りです。

☆小池知事について・・・5年後もまだ知事がどうかかわからないのに、築地もオリンピックも責任が取れるのか？

「都民ファースト＝首長が作る地域政党」が多数を占めた場合、本当にその自治体の政治をチェックできるだろうか？

→政治的素人だらけの集団が、都議会の大勢を占めた場合、体制翼賛化してしまう可能性大。
健全な地方自治の本来のあり方と矛盾する。

☆築地市場の豊洲移転問題

→当初の素晴らしい問題提起に比べ、今は変質して迷走中。

築地の仲卸は中小零細企業が多く、築地→豊洲→築地と短期間に2回もの引越しに耐えられない。結果的に廃業せざるを得ないものが多く出てしまうだろう。

築地ブランドというのは、目の前でセリをし、目利きを出来る「仲卸」のブランド価値が大きいことを忘れている。

☆オリンピック経費の負担増

→負担増 6000 億を税金からは出さないというが、どこから出すのか？確実な見通しが全くないまま。
(ソウル市の民主化改革の成功に学べ)

☆ソウル市は 2011 年に朴 元淳市長が誕生して以来、改革が進み、民主的な人権自治体となって成功している。先日誕生した韓国の新大統領も、ソウル市長の成功を参考にしている。

☆スローガン「市民が市長だ！」

☆3 大革新公約の着実な実施

1. 無償給食の実施 →貧困家庭だけの選別的福祉でなく、すべての児童生徒を対象とした普遍的福祉を実施したため、子どもの中に分断や差別が持ち込まれなかった。
2. ソウル市立大学授業料の半額化 →バイトに追われていた学生が、学びやサークル活動などに打ちこむ余裕が出来た。
3. 非正規職の正規職化 →当初、清掃業の労働者が「選挙後はどうせ忘れられる」と懐疑的だった朴市長は当選後、朝 4:00 から清掃をともにしてから出勤した。これは、「忘れないよ」とのメッセージ。これまでに 8300 人を正規職化。ユニオンから引き抜いた人に現場を調査させ正規職化して行った。清掃・警備・駐車場などの間接雇用労働者を直接雇用・正規雇用化して行っているところ。この結果、無名の労働者から、労働に誇りを持つ「公務職」になり、自主性・主体性が生み出された。

☆市民参加の予算制度の導入＝ソウル市予算 20 兆ウォンのうち 400 分の一の 500 ウォン(約 50 億円)について、市民が予算案を提案し、市民代表が使い方を決定する制度を導入した。

☆これらの改革の結果、ソウル市の大学生をはじめとする若者や市民は、「政治は変えられる」「生活が変わる」実感を持つようになったので、政治に関心を持ち、積極的に参加するようになった。だから、デモにもあれ程の大勢が集まる。

☆ソウル市朴市長の市民運動と日本の市民運動の差は？ →80年代に軍事政権と闘って多くの死者を出し、逮捕者を出しながら民主化を勝ち取った韓国と、敗戦によって民主化された日本の違いがある。

人権は勝ち取るものだった。経験による運動の質の差がある。

☆ソウル市は市長が変わって以来非常に民主化されている。(Tさん)

◇(連続講義)ケアの哲学入門 第2回「ケアの概念を考える」の報告◇

崎川修先生をお招きしての「ケアの入門講座」第2回目は、下記要領で40名近いご参加者を頂きました。「ケア」という概念の定義を考えた第2回。なんとなく「口当たりのいい言葉」として曖昧に使われがちなこの語を、語源や用法から解き明かしながら、その本質を「日常性」や「相互性」「協働性」と言ったキーワードから見つめ直したこの講座中で触れられたフランスのポストモダンの哲学者フーコーの「生-権力」に関してのくだり。ルールに従わなければ殺す近代以前の「殺-権力」に対して、人々の生にむしろ積極的に介入し、それを管理し方向付けようとする「生-権力」が現れた現代。個々人を巧妙に支配管理する「生-権力」の技術が発達してきたと言える時代に生きていればこそ、本来の「ケア」から一層かけ離れていく危険を孕む「ケア」の概念を考え直すことの意味を改めて噛み締めなければ、と警鐘を鳴らしてお話を深めて行かれたのが印象に残りました。

結論としての「ケア」はやりとり。キュアのように、専門家からありがたく降ってくるものではなく、水平的、双方向的、非専門的、日常的関わり相互的な「やりとり」、「与える」だけでなく「受け取る」のも「ケア」です。耳を傾け、応答する対話を「ケア」とするなら、見えてきた「ケア」の課題は、協働性です。一人ではなく、関わりとして、ネットワークによる「ケアの場」を形成すること・・・「ケア」とは本能ではなく、努力し受け継いでいく文化、外に開かれた営みだと気付かされます。「ケア」と「公共」の講演会を交互に開催している「ベグライテン」であり、「ミシュカの森」ですが、その活動への意味づけを再認識することができた先生のお言葉でした。以下、参加された方からのご感想を後に掲載しました。(入江 杏)

【講師】崎川 修先生 (ノートルダム清心大学准教授)

【日時】2017年5月6日(土) 14:00~16:30 【参加費】千円

【場所】上智大学 6号館 2F 203 教室

【主催】ベグライテン ミシュカの森 【共催】上智大学哲学科

ご参加者のご感想から

★10年以上前に職業訓練校で崎川先生にご講義いただき、感銘を受けたものです。それまで自らの死生観や宗教観について真剣に考えたことがないことに気づかされました。先生の思慮深く、穏やかな語り口を聞いていると、心に一石を投じられたような心地良い波紋を感じます。次回からも是非参加したいです。
濱津 敬さん

★分からないことを分からないままにしておく、そのプロセスを自分に対しても自分以外の人に対してもどのような形で大事にしていけるか…そこから広がる関係性。私にとってとても興味があるお話でした。
平塚和子さん

★「弱さ」を「強さ」に変えていく手段として「他の人に頼るチャンネルを持つこと」をあげていらっしやいました。よく「困ったときに頼ってもらえる人になりたい」と思うことがありますが、そもそも自分は「人に頼れるのか」と考えました。また「しなやかさ」という言葉は、よく聞くけど腑に落ちなかったのですが、本日の文脈ではそうか、とうなずけるところが多かったです。ありがとうございました。

Y.Iさん

★「人間の尊厳」はすでにあるものではない。発見して大事にしていかないと見失う…という言葉が印象的だった。意識して双方向性のケアの中で、「受け取ることができる力」を考えていきたい。

◇◇5月～6月開催の憲法カフェのご報告◇◇

◇憲法カフェ@四ツ谷 第2期 第4回の報告◇

【日時】2017/6/15（木）18:30—20:30 【場所】東京法律事務所 1階会議室

【テーマ】憲法前文と第2章(戦争の放棄)を読んで、話し合いました。

辺野古新基地建設など沖縄の現状について森正樹さんからご報告を受け話し合いました。

【提題者】岸 松江 弁護士(東京法律事務所) 森 正樹 さん(ベグライテン世話人)

【参加費】1人500円+印刷代(100円程度 参加費は提題者への謝礼となります)

憲法カフェ@四谷6月例会に参加して

平石泰基

6月の憲法カフェは、弁護士の岸先生の講話を出発点として、憲法第9条について自民党の改憲草案の意見を交換しました。5月3日に安倍首相が「第9条第3項加憲論」を打ち上げた後だったこともあり、このテーマが中心でした。私は憲法カフェには3回目の参加ですが、要点を報告させていただきます。

自民党改憲草案で「9条の2」の新設を謳っているが、安倍首相がこれと異なる提案をした理由としては、日本会議のメンバーである伊藤哲夫氏のシナリオに沿っているのではないかの分析が示されました。つまり、第一に、議席が三分の二あるうちに憲法改正の壁を突破することが必要であり、そのためには、九条の会やそれに賛同する学者など護憲派に揺さぶりを掛け統一戦線を作らせないことが必要と考えているのだろう、また、新聞社のアンケートなどで国民の80%以上が「今の憲法があつて良かった」と答えたように、第9条が国民に定着していると見られることから、国民の抵抗の少ないところから改憲に手を付けるのが良いと考えているのではないかと、とのことです。

そして、高等教育の無償化の提案も、それを提案している維新の会を取り込むための戦術であろう、そして、「東京オリンピック云々」は、世間受けを狙ったものであろう、……などの意見が交されました。また、国会の専権事項である憲法改正を総理大臣が発議するかのような発言は、憲法違反だろうとの意見もありました。

現状の認識としては、例えば北朝鮮のミサイル問題を挙げれば、今は、かつて言われていたような「米軍が日本を守ってくれる」というような状況ではないこと、専門家の意見ではミサイルからの実際の防御は困難であることは知らせずに、実効のない避難訓練などで徒に国民の危機感だけを煽っているなどの指摘がありました。

このような背景のなかで、いわゆる“加憲”の中身については、伊藤哲夫氏の案に「自衛のための戦力」と謳っていることから、一般には個別的自衛権の範囲であるかのような印象を与えますが、自民党としては、国

連憲章で「個別的及び集団的自衛の固有の権利」とあることから、当然に「集団的自衛権を含むもの」と解釈してくるだろうとの分析です。

「“自衛隊が違憲”という考え方に立つのであれば、その存在自体を許さない、自衛隊を潰せ、という主張になるのではないか」、「安倍首相の“反対ばかりしているのは思考停止だ。対案を出せ”というのに正面から対案をだすべきではないか」との意見も出されましたが、現在の情勢下では、「反対意見も含めて十分に議論した」という外形をつくることになり、結果的に安倍首相の作戦に利用されることになるのではないかと、自民党を少数に追いやって後でなければいけない、との反対意見が出されました。

今後の懸念材料としては、民進党の中の改憲派、公明党を抱き込むような案が自民党から出された場合は、野党4等に楔を打ち込む結果になってしまう可能性が挙げられました。

森正樹さんから、素晴らしい沖縄報告(岸弁護士も絶賛)があったのですが、紙面の関係で今回は割愛させていただきました。次回(7月20日)は、共謀罪と関連する国民の権利に関する条項を中心に勉強します。生活に直結するテーマです。是非、皆さんご参加ください。

◇わかもの憲法カフェ@法政大学の報告◇

【日時】2017/6/17(土) 11:00~13:00 【場所】法政大学市ヶ谷キャンパス

【議題】日本人と外国人

若者トーク・カフェの報告

小宮修太郎

6月17日、第1回の若者トーク・カフェが行われました。

主催は、今春に発足したベグライテン若者グループ。若い世代の人々が集い、自由に話し合える空間を作っていきたいと思って、このイベントを企画し、2か月前から準備を進めてきました。

第1回のテーマは、「日本人と外国人」。島国的と言われる日本において、人々と外国人はどのように関わりあっているのか、いかなる問題点があるのか、皆で話し合ってみようと呼びかけました。会場は、法政大学市ヶ谷キャンパスの一教室。11時から、昼食休憩をはさんで、13時までの討論が予定されていました。

当日の参加者は20名で、若い世代が16名。そのうち約半数が、アジアの国々からの留学生でした。日本人側は、学生のほかに数名の社会人(20代の教師、会社員、団体職員など)が含まれていました。

主催者としては、いきなり「外国人差別」というよりは日常的な事象、関係から・・・と思っていましたが、実際には、ある留学生の「数か国で生活しました。差別は、どこにもありますよ。」という発言で始まり、一気に差別論へと入っていきました。さまざまな体験話も出ましたが、印象的だったのは、「差別を無視するのが、私の対処法。相手にしない。」という発言。ここから、「知的自己防衛能力を身につけることが大切。」という話も出てきて、1つの流れが感じられました。しかし、これに対抗するように、社会や歴史の文脈で差別の事象をとりあげて、自分の思いを表現する発言も相次ぎ、議論全体としては、しだいに「差別はなくしていくべきだ」という論調にまとまっていきました。

昼食休憩後に再開された後半では、「教育によって、差別の解消を目指すべきだ」という考えが共有されていることが感じられ、その方向で具体的な議論が行われていきました。対立や波乱はなく、穏やかな意見交換という感じでした。1つの結論にまとまったというわけではありませんが、参加者それぞれの心に残ったものがあったと思います。

全体をふりかえると、適度に緊張感もある中で議論らしい議論が展開されていったと思います。その面でも、所期の目的は十分に達成されたと感じています。

ということで、スタッフ一同、明るい気分で今後の活動に取り組んでいけそうです。この活動への皆様のご支援、よろしくお願いします。

◇◇ 5月～6月開催の訪問活動のご報告 ◇◇

◇ 「マギーズ東京」5月訪問会の報告 ◇

「マギーズ東京」は英国発祥の「マギーズキャンサーケアリングセンター」をコンセプトにつくられました。がんになった人とその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人が、とまどい孤独なとき、気軽に訪れて、安心して話したり、また自分の力をとりもどせるサポートもある。それがマギーズ東京です。自然を感じられる小さな庭やキッチンがあり、病院でも自宅でもない、第二の我が家のような居場所。海風を感じながら、自由にお茶を飲み、ほっとくつろぐことができるマギーズ東京の「ヒューマンサポートケア」を体感してみたい・・・という声を受けて、4月に続き、5月も「マギーズ東京」の訪問会を企画しました。

「暮らしの保健室」訪問会でもお世話になった秋山正子先生（マギーズ東京 センター長）はじめ関係者のご厚意により訪問会を企画、下記日程で盛会のうちに終了しました。

【日時】2017年5月14日（日）13:00～15:00

【場所】マギーズ東京 〒135-0061 東京都江東区豊洲6-4-18

【アクセス】ゆりかもめ「市場前」駅下車徒歩3分

【参加費】500円（現地徴収）満席、参加45名分、22500円全額をチャリティとして、マギーズ東京に寄付させて頂きました。

マギーズ東京5月訪問会のご感想

5月14日のマギーズ東京訪問会のご感想をご許可を得てアップさせていただきます。

★本日はありがとうございました。何度も利用させていただいていますが、

マギーズの成り立ち、こだわり、運営、目指すところ、などなど…

知りたいと思っていたことを話していただき、私のがん患者支援施設や運営に直感的に抱いていた違和感を理論的に話していただき、さらに興味と愛着がわきました。スターバックスで有名になった「サードプレイス」という概念がありますが、マギーズは、がん患者さんの「サードプレイス」なのだと思います。

日本の中に第2第3のマギーズができていくこと、またマギーズ東京が継続運営していきながら、こうしたがん支援のあり方が広まり、認知されていくことを望んでいます。微力ながら応援させていただきたいです。

熊倉本音子さん

★マギーズ東京の話は昨年の緩和学会でお伺いして以降、イギリスのマギーズについて調べたりすることがありました。実際にマギーズに行くと、様々な建築の構造から「支えたい」というスタッフの、共に歩む気持ちが伝わってきて、「場の持つ力」を感じました。私は現在、神奈川の病院で看護師として働いていますが、病院の中で行えることの1つとして緩和チームとの連携、地域の介護サービス機関との連携など、患者、家族の思いや状況、気持ちが伝わることでその人らしさを見ることがあります。マギーズには様々な方が癒しを感

じられる力があり、いると穏やかな気持ちになります。マギーズのデアリング、シェアリング、ケアリングの聴く姿勢を意識して、普段の相談の中で生かしていきたいと思います。 榑木桃子さん

★昨年11月に15歳の娘を小児癌で亡くしました。娘の遺志を引き継ぎ、今後活動を始めようと思って立ち上がりました。今回お話を聞いてとても勇気をいただきました。

秋山先生と鈴木さんの勇気に心動かされました。日本中にこのマギーズが広がっていきえることを願ってやみません。 大変有意義な学びを下さって有り難うございました。 三村 麻子さん

★私の妻は2005年5月に乳がんで48歳で亡くなりました。

ホスピスに入る時、希望する緩和ケア病棟は「海が見えるところがいい」と言いましたが、東京近郊ではそのような希望を叶えられる場所は ありませんでした。緩和ケアは聖路加病院でした。 当時有明に癌研はありませんでした。 もしその当時このような施設があればどれほど良かったかと思います。 杉本よしあきさん

★立ち上げの背景、経営からビジョンまで、秋山先生からわかりやすく、かつ熱意をもってお話いただき、共感と感銘を受けました。 特になが患者の継続して実存する思いへの寄り添いは、場も含めて社会資源、かつ、ソーシャルキャピタルとして、必要で貴重なものとして求められ続けるものと思います。

★暮らしの保健室ができたときに、これぞ必要大切な場所であり、 機能であったと感動しました。そして、今度はマギーズ東京。 ずっと実際に来てみたかったので、この機を得られたことに感謝です。この場所のほっとする空間は、どんな自分でも受け容れてもらえる 安心感みたいなものを感じました。「A View from the Front Line」早く読みたいです。 出版されることを楽しみに待っています。 谷口 奈央さん

★★ その他のカレンダー★★

◆真生会館 土曜日講座「現代人の生き方、社会を考える」講座◆

4～7月期では経済、エネルギーの問題をライフスタイルの基本的な問題として取り上げてきましたが、今季の最終回は現役の自民党の国会議員でただひとり、「原発」を明快に提唱されておられる河野太郎さんのお話を聞きます。

【日時】7月15日(土) 13時30分～15時30分

【場所】真生会館 〒160-0016 東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

【ゲスト】河野 太郎さん(衆議院議員) 【タイトル】 原発について

【お申込み・お問い合わせ】一般財団法人真生会館 (JR 総武線信濃町駅改札を出て右側徒歩1分)

〒160-0016 東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

電話 03-3351-7121 (受付代表・受付時間 10:00-16:45) ファックス 03-3358-9700

E-mail:gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp HP:http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/

◆「美ら海を未来へ」上映会◆

辺野古で、高江で、米軍施設の建設が強行されています。そんななか、沖縄各地から市民がかけつけて、必死の座り込みの行動が行われています。なぜ、そこまで頑強に工事に反対するのでしょうか？彼らが、私たちが、守りたいものは何なのでしょう？FoE Japanと「手わたしプレス」が共同で、「美ら海を未来へ～辺野古・高江 新基地建設反対によせる思い」を制作しました。中井信介監督が、丁寧なインタビューと

資料をもとに、さまざまな人たちの思いや事実を映像に…。沖縄のすばらしい自然と人々の暮らし。悲惨な沖縄戦。占領と本土復帰。しかし、その結果はあまりに苦いものでした。「ふるさとの自然と自分たちの暮らしを守りたい」「悲惨な戦争を二度と繰り返したくない」「自分たちの未来を自分たちの手で切り開きたい」—そんな人々の思いが詰まった70分です。上映会と中井監督の講演会を開催します。どなたでもご参加いただけます。お誘いあわせの上、お気軽にご来場ください。

※各地での自主上映を呼びかけております。基本上映料は3万円です。詳しくはお問い合わせください。

【日時】 2017年7月15日(土) 14:00~16:20 (受付開始 13:30)

【会場】 文京区区民センター 3A会議室 (東京メトロ:後樂園駅、都営地下鉄:春日駅)

【プログラム】 「美ら海を未来へ」上映会 中井信介監督のお話

辺野古の現場から…野川未央さん ほか(予定)

【参加費】 1000円 (学生・FoEサポーター 500円) 【主催】 国際環境 NGO FoE Japan

【申し込み】 以下のオンラインフォームから。またはメールにてご氏名、E-mailアドレスをご連絡ください。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/0b3bffab124145>

【問い合わせ】 FoE Japan Tel: 03-6909-5983 E-mail: henokotakaengo@gmail.com

◆明治学院国際平和研究所後援シンポジウム◆

「差し迫る軍事化～市民・研究者・技術者はいかに生きるべきか？」

【日時】 2017年7月15日(土) 13:30~16:40 【参加費】 無料・参加申込不要

【場所】 明治学院大学 白金校舎 地 図 2号館1階 2201番教室

【講師】 小沼通二(世界平和アピール七人委員会会員)

熊本一規(明治学院大学国際学部教授)、天笠啓祐 (ジャーナリスト)

いま、私たちは戦後という時代を改めて問い直す、大きな転換期に差し掛かっています。平和憲法のもと戦後民主主義の中で、この国は復興を遂げ、科学や技術は生活を豊かにし便利にし、高度経済成長時代へと突き進みました。それは同時に合理化・公害・交通戦争・環境破壊・原発事故をもたらし、多くの人々の健康を破壊し、自然を破壊しました。オイルショック、バブル崩壊を経て、経済の停滞期が続きましたが、それを逆手にとって、安倍政権は新しい富国強兵策を打ち出しました。国家の軍事力と経済力を強くするため武器を作る技術、世界に冠たる経済発展を遂げるべく、相次いで戦後を否定する政策を打ち出し、それとともに戦後の平和、互恵の精神が失われつつあります。このような状況の中で、軍事研究、沖縄という、いま最も矛盾が露呈している現場からの報告を受けて、今後の私たちの進むべき道を探っていきたいと思います。自分にとって、市民・研究者・技術者にとって何が一番大切で、何が必要なのかを、皆様とともに議論したいと思います。

【主催】 People21 【共催】 現代技術史研究会 まあるい地球をみんなで守ろう分科会 (M分科会)

【後援】 明治学院大学国際平和研究所

◆シンポジウム「タブーに踏み込む科学・科学者～

軍事研究、遺伝子操作について考える」◆

いま、科学と科学者は大きな岐路に立っています。

安保関連法、武器輸出解禁、兵器開発のための軍学共同研究が推し進められつつあります。

これまでとは異なる精度と速度をもつ新たな遺伝子操作により、これまで自然界には存在しなかったような生命体が誕生しつつあります。現代科学がいのちの尊厳を踏み越え、好戦者の手先になり、神の領域に近づきつつあるといえます。そのことは確実に市民生活のあり方を変えていきます。

大事な市民との対話や社会的な合意形成を経ることのないまま、事態は暴走を始めているともいえます。

今回は、科学者と市民との対話を通して、いま科学と科学者の世界で何が起きているか、どうすればよいかを率直に話し合うスタートにしたいと思います。

【日時】2017年7月17日(月・祝日) 開場 12時30分 開演 13時 終了 18時15分

【会場】江戸東京博物館 会議室 JR 総武線「両国駅」西口下車徒歩3分、東口下車徒歩7分

【講演者】小沼通二氏(元日本物理学会会長、世界平和アピール七人委員会委員)

池内 了氏(名古屋大学名誉教授。世界平和アピール七人委員会委員)

島藺 進氏(上智大学大学院実践宗教学研究科教授、東京大学名誉教授)

石井哲也氏(北海道大学教授、日本生命倫理学会会員)

上林茂暢氏(龍谷大学名誉教授)

天笠啓祐氏(ジャーナリスト)

【特別ゲスト】アーサー・ビナード氏(詩人)

【資料代】1000円 ※途中入場あり

【主催】ゲノム問題検討会議、people21 【協賛】DNA問題研究会、秘密保護法を考える川崎市民の会

【問い合わせ】神野玲子(携帯 090-2669-0413、E-mail jreikochan@yahoo.co.jp)

◆安倍内閣の退陣をめざす7・19大集会◆

【日時】2017年7月19日(水) 18時半～ 【場所】衆議院第2議員会館前を中心に

【主催】戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会

戦争をさせない1000人委員会 解釈で憲法9条を壊すな!実行委員会

戦争する国づくりストップ!憲法を守り・いかす共同センター

※毎月「19日」には「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」主催の集会があります。以下決まっているものを掲載します。

※8月19日(土) 19日行動 時間:15:00～(予定) 場所:議員会館前

※9月19日(火) 19日行動 時間:18:30～ 場所:国会正門前

◆メディアの危機を問う ～デビット・ケイ報告をどう生かすか～◆

6月12日、言論と表現の自由に関する国連特別報告者デビット・ケイ氏が、日本のメディアの独立性を問い、日本で強まる報道規制と表現の自由の危機を訴えた調査報告書の人権理事会に提出しました。

報告のポイントは? 報告はどのような調査・取材で作られたのか?人権理事会ではどのような議論が交わされたのか?各国の反応は?私達はどうか活かしていったらいいのか?デビット・ケイ氏の昨年4月の調査に協力し、今年6月ジュネーブで開催された人権理事会にも出席した伊藤和子氏をお招きしてお話を伺います。

【日時】日時: 7月21日(金) 18:30～20:30(18時開場) 【参加費】参加費:800円 学生無料

【会場】会場:新宿農協会館・8階 大会議室

(JR新宿駅南口より甲州街道を西方向へ。最初の交差点「西新宿1丁目」を左折、マクドナルドのある

丁字路を右折。しばらく西へ進んで左側)

【主催】主催:メディアの危機を考える市民の会 (連絡先 放送を語る会・小滝 090-8056-4161)

【講師】伊藤和子氏 (弁護士、ヒューマン・ライツ・ナウ事務局長)

【プロフィール】1994年弁護士登録、以来女性、子ども、冤罪など、人権問題にかかわって活動。

2004年ニューヨーク大学ロースクール留学、2005年国連インターン等を経て2006年国際人権NGO

ヒューマンライツ・ナウを立ち上げ、以後事務局長として国内外の人権問題の解決を求めて活動中。

著書に「人権は国境を越えて」(岩波ジュニア新書)、「ファストファッションはなぜ安い？」

(コモンズ) など多数。

◆日本ペンクラブ 平和委員会シンポジウム「戦争と文学・沖縄」◆

青く澄み渡った空と透明な海、亜熱帯の風。太平洋戦争末期の悲惨な地上戦とそこから続くアメリカ統治の歴史と基地の現実。沖縄の光と影は濃密な人と人との交わりを生み、独特の文学が生まれました。

作家・大城貞俊さん(「沖縄文学への招待」琉大ブックレット)を沖縄からお迎えし、「帰郷」(大佛次郎賞)ほか、反戦文学作品とベストセラーで知られる浅田次郎さん、沖縄文学選(講談社)をまとめた川村湊さんが「沖縄と文学」を語り合います。ペンクラブ 戦争と文学 第4弾 夏。すずらん通りでお会いしましょう。

【日時】2017年7月22日(土)午後2時~午後4時30分(開場 午後1時)

【場所】東京堂書店 東京堂ホール(千代田区神田神保町1-17 東京堂書店6階)

【アクセス】地下鉄神保町駅下車・A7出口から徒歩3分

【参加費】1,000円(当日受付払い)主 催/一般社団法人日本ペンクラブ

【定員】80名 ※要申し込み・メールまたは往復葉書の申込到着順

【プログラム】

基調講演 「いま沖縄と文学を考える」浅田次郎(日本ペンクラブ会長)

お話 詩人・作家 大城貞俊(前琉球大学教授)

お話 文芸評論家 川村湊(前法政大学教授)

質疑と討論 コーディネーター 梓澤和幸(ペンクラブ平和委員会委員長)

<お申し込み方法>

事前申込制です。往復はがき、または電子メールのいずれかでお申し込みください。先着順、定員になり次第締め切りますのでご了承ください。

◎往復葉書の場合

「戦争と文学・沖縄」参加希望、氏名、住所、電話番号、参加希望人数(お一人4名まで)を明記のうえ下記住所までお送りください(7月14日までに必着)。

※返信の宛名面に、申込希望者の①「郵便番号」②「住所」③「お名前」をご記入ください。

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町20-3 日本ペンクラブ 井出宛

◎電子メールの場合

タイトル(件名)に、「戦争と文学・沖縄」参加希望 とお書きください。

本文に、氏名・住所・電話番号・参加希望人数(お一人4名まで)を明記の上、以下のメールアドレス宛にお送りください(7月14日までに必着)。Tsutomu_Ide@japanpen.or.jp

確認後、事務局より入場整理券メールを返信いたします。

※当日は、返信葉書または入場整理券メールをプリントアウトしてご持参ください。

お問い合わせ先：日本ペンクラブ事務局 井出宛 (tel:03-5614-5391)

開場後、出演者のサイン本販売会を行いますので、お早めにお越しください。

◆シンポジウム 保健室と地域は何ができるのか?◆

【日時】2017年7月22日(土) 13:00~16:00

【場所】専修大学神田キャンパス 205 教室 (1号館2階) (千代田区神田神保町3-8)

【アクセス】九段下駅(東西線、都営新宿線、半蔵門線) 出口5より徒歩3分

水道橋駅(JR) 西口より徒歩7分

【参加費】1,500円 ※書籍「3・11後の子どもと健康~保健室と地域に何ができるか?」付

【プログラム】1部:「県境を超えてつながる母親たち」上映(OurPlanet-TV制作/2016年/26分)

報告「保健室の現場から」

2部:トークセッション「保健室と地域は何ができるのか」

※登壇者

大谷尚子(養護実践研究センター)

吉田由布子(「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク)

白石草(OurPlanet-TV) 佐藤あみ(元養護教諭) 松田智恵子(養護教諭)

木本さゆり(放射能から子どもを守ろう関東ネット共同代表)

【予約】件名を「7/22<x-apple-data-detectors://8>シンポ申込み」とし、お名前、人数、ご住所、お電話番号、

Email アドレスを info@ourplanet-tv.org までお知らせください。

電話 03-3296-2720 FAX 03-3296-2730 でも受付けております。

◆グリーフサポートせたがや主催◆

◇「わたしの気持ちとあなたの気持ち」講演録 発行記念講演会◇

昨年度4回にわたって行なったグリーフサポートせたがやの連続講座「わたしの気持ちとあなたの気持ち」の講演録の完成を記念する講演会です。連続講座第1回の講師 近藤卓さんをお招きし、さまざまな喪失体験をもつ子どもたちが安心して集える場づくりについてお話しをうかがいます。

近藤卓先生は「いのちの教育」の第一人者であり、「子どもの自尊感情」の研究を長年続けられています。

全国各地を講演で飛び回られている近藤先生のお話しが聞ける機会をお見逃しなく!

【日時】2017年7月23日(日) 午後2時~4時(開場 午後1時半)

【場所】カタリストBA(世田谷区玉川2-21-1 二子玉川ライズ・オフィス8階)

【アクセス】東急田園都市線・大井町線「二子玉川」駅から徒歩1分

【参加費】1,500円☆講演録1冊つき!(介助者無料、手話通訳・ノートテイクあり)

【定員】100名(当日参加可・満席の場合は事前申込者優先)

【主催】グリーフサポートせたがや(<http://sapoko.org/>) 【協力】カタリストBA

【お申し込み・お問い合わせ】グリーフサポートせたがや

Email: griefsetagaya@yahoo.co.jp

電話:03-6453-4925 留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡いたします。

＜連続講座「わたしの気持ちとあなたの気持ち」講演録について＞

グリーフは一人ひとり違うだけでなく、一人のなかで様々な感情がわきおこります。この講座を通して「気持ち」を大切に扱うことの意義を考えたいと思い、今回の連続講座は「気持ち」に焦点をあて、多様な専門分野で活動されている講師の方々をお招きし、それぞれの「現場」の経験からお話ししていただきました。2016年3月に行った「わたしも大事 あなたも大事」講演録の発行記念イベント、巖岩奈々さん（Kids Hurt Too Hawaii 理事）さんと保坂展人さん（世田谷区長）の対談も収録されています。たくさんの方に届くことを願っています。

第1回 「基本的自尊心と共有体験」 近藤 卓さん

第2回 「子どもたちが主人公の活動支援」 甲斐田 万智子さん

第3回 「ひとりじゃないよ～怒りは願いの裏返し～」 副島 賢和さん

第4回 「希望の回復」 坂上 香さん

連続講座「わたしも大事 あなたも大事」講演録 発行記念対談 巖岩奈々さん&保坂展人さん

本体価格 1,000円（+送料）新書判・本文 227頁

発行 一般社団法人グリーフサポートせたがや

ご注文は griefsetagaya@yahoo.co.jp<<mailto:griefsetagaya@yahoo.co.jp>>まで。

◆日本弁護士連合会第60回人権擁護大会プレシンポジウム◆

進む監視と個人の自由～監視で安心・安全!?!～

国会の会期末を翌日にひかえた6月15日、参議院は、委員会採決を省略する形で、本会議で賛成多数で共謀罪（テロ等準備罪）法案を成立させました。強引です。あまりにも強引です。まるで国民の意見に聞く耳を持たないといわんばかりです。いっぺんに277も犯罪が増えました。捜査には、あらゆる場所に設置された監視カメラ、設置が簡単ばGPS、携帯電話の位置情報などが活用されます。だれもが気づかぬうちに捜査対象になって、日常生活をずっと監視され続ける危険があります。このような監視社会の問題と個人の自由の危機について、ムスリムに対する警察の監視について国家賠償請求訴訟を手掛けた弁護士や、この訴訟を詳しく取材し公安警察にも詳しいジャーナリスト、諜報機関の活動に対する憲法的統制を研究する憲法学者を招いて議論します。どうぞご参加ください。

【日時】2017年7月24日（月）午後6時～午後8時

【場所】弁護士会館2階講堂クレオA 【主催】東京弁護士会

千代田区霞が関1-1-3 地下鉄丸ノ内線・日比谷線・千代田線 「霞ヶ関駅」B1-b出口直結

【パネリスト】青木 理氏（ジャーナリスト）植松 健一氏（立命館大学教授、憲法学）

岩井 信弁護士（第二東京弁護士会、ムスリム違法捜査弁護団）

【コーディネーター】清水 勉弁護士（東京弁護士会秘密保護法対策本部委員）

【参加費】無料。 予約・申込み 不要。どなたでも参加いただけます。

◆貧困ってなんですか～日本の貧困問題を学ぶ～◆

【日時】2017年7月26日（水）18:45～20:30

【場所】 聖イグナチオ教会アルペホール (四ツ谷駅下車すぐ、上智大学手前)

【お話】 認定 NPO 法人自立生活サポートセンター「もやい」 理事長 大西連さん 事務局長 加藤歩さん

現在の日本社会では格差がひろがり、貧困が多様化していると言われていの中でホームレスが減っているって本当ですか。最近では子どもの貧困、高齢者の貧困、女性の貧困、若者の貧困が深刻だと聞きますが、なぜでしょうか。誰でも起こりうる>貧困の現状を学び、みんなで私たちに何ができるか考えてみましょう。是非ご参加ください。

【参加費】 無料・申込不要 【主催】 カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会) メルキゼデクの会

【問い合わせ・連絡】 連絡：岩田鐵夫 (090-4959-0652)

【協力】 四ツ谷おにぎり仲間・聖イグナチオカレーの会・IMA 緊急シェルター

◆市民グループ「九条・まちだ」主催の講演会

「共謀罪法は成立したけれど・・・」◆

市民グループ「九条・まちだ」では第26回目の企画として下記の講演会「共謀罪法は成立したけれど・・・」で元法務大臣でいらっしゃる平岡秀夫さんをお迎え致します。講演会後は参加者のみなさまが自由に活発な意見交換をしていただける時間を作りたいと考えています。よろしくお祈りします。

【日時】 ◇2017年7月29日(土曜日) ◇開演：15:00 (開場 14:40)

【会場】 勝楽寺 東京都町田市原町田3-5-12 http://shourakuji.com/keidai/map_location.html

【講師】 平岡秀夫さん(弁護士・元法務大臣) 1954年生 山口県岩国市出身 東京大学卒業、大蔵省を経て、2000年から2012年まで衆議院議員 民主党政権で法務大臣を務める

【司会】 石毛えい子さん(社会福祉学者・元衆議院議員)

【参加費】 500円 【定員】 100名様 ・当日先着順とさせていただきます。

安倍政権は「共謀罪」法を成立させました。数の力にまかせた奇手と民主主義を破壊する暴挙によって国会の論議も国民への説明も不十分なままにです。私達市民はこの悪法を認めることはできません。抵抗する手立てはないのか?市民社会にひたひたとおし寄せる悪法の波を防ぐ手立てはないのか?私達はいたずらにひるまず萎縮せず、悪法に立ち向かい立憲主義と民主主義を取り戻したいと思ひます。「共謀罪」法の全てを知り尽くしておられる、平岡秀夫さんのお話を お聴きし、その手立てを探っていきたいと思ひます。 【主催・問合せ】 九条・まちだ article9mcd@yahoo.co.jp

◆「沖縄 さまよう木霊 ～基地反対運動の素顔～」上映会&トークショー ◆

【日時】 日時 2017年7月30日(日) 14:00~17:30

【場所】 立教大学 池袋キャンパス 14号館3階 D301 14号館D301

2017年1月2日のMXテレビ「ニュース女子」は、インターネット上に流布される事実に基づかない“沖縄ヘイト”を地上波で放送し、BPO(放送倫理・番組向上機構)の2つの委員会でも審議に入るなど大きな波紋を投げかけた。同じ1月29日、毎日放送が放送した「沖縄さまよう木霊～基地反対運動の素顔～」は、同じテーマを扱いながら、事実に基づく取材の力をまざまざと見せつけた。番組を制作した齋加尚代・毎日放送ディレクターから制作意図を伺いながら、沖縄の基地問題から見える日本のありようを考えていきたいと思ひます。

【講師】毎日放送報道局ディレクター齋加 尚代 氏

1987年毎日放送入社。報道局ディレクターとして、「なぜペンをとるのか～沖縄の新聞記者たち」（2015年9月27日放送）で第59回JCJ（日本ジャーナリスト会議）賞受賞。「沖縄さまよう木霊～基地反対運動の素顔」（2017年1月30日放送）で第54回ギャラクシー賞奨励賞受賞。

【コーディネーター】砂川 浩慶氏（立教大学 社会学部メディア社会学科教授）

【主催】社会学部メディア社会学科・砂川ゼミ 【共催】メディア総合研究所

【対象者】本学学生、一般 【申し込み】以下、お問い合わせのメールアドレス宛てにお申し込みください。

【参加費】一般500円（資料代） 学生・メディア総研等、会員は無料、

【お問い合わせ】砂川浩慶・研究室 E-mail : sunakawa@rikkyo.ac.jp

◆日本国憲法施行70年記念連続講座◆

第2回「ヘイトスピーチ～差別と、表現の自由と～」

神奈川県川崎市では、これまで繰り返しヘイトスピーチデモが行われ、昨年6月3日にヘイトスピーチ解消法が施行された直後も、同様のデモが実施され、また、ネット上のヘイトスピーチもすさまじいばかりです。これらは、差別（憲法14条）であり、個人の尊厳を著しく侵害するものです（憲法13条）。

表現の自由（憲法21条）やその規制はどうあるべきなのか。

神奈川新聞「時代の正体」でこの問題に真正面から取り組んでこられた石橋学さんのお話をお聞きます。

私たちの社会は差別とどう向き合うのか。一緒に考えたいと思います。

【日時】2017年7月31日（月） 18:30～（開場18:10）【費用】無料 予約不要

【場所】神奈川県弁護士会館5階 横浜市中区日本大通9番地

【講師】石橋 学 さん（神奈川新聞デジタル編集委員【主催】神奈川県弁護士会

【お問い合わせ】神奈川県弁護士会 電話 045-211-7705

◆税金カフェのお知らせ◆

「税金ってなんだかムズカシそう・・・」「税金のことなんて知らなくてもいい？」——

いえいえ、税金は、憲法と同じように、わたしたちの生活に密接にかかわっています。

「税について考えること」は、「わたしたちの暮らしを考えること」なのです。

「一人ひとりのかけがえない命と暮らしを守るためには？」「公平な税、公正な税とは？」——

お茶を飲みながら、作家の雨宮処凛さん&税理士の内田麻由子さんと、楽しく社会と税金について学び、語り合しましょう。グループディスカッションもあります。

おいしいお食事もありますので、ぜひお早めにご来場の上、ご注文ください（お食事は別会計です）。

◆日 時：2017年8月1日（火）18:30～20:40（開場 17:30）

◆第1部 「命と暮らしを考える」

講 師：雨宮 処凛（あまみや・かりん）氏 作家。公正な税制を求める市民連絡会 共同代表

著書に『自己責任社会の歩き方』『一億総貧困時代』他多数 公式サイト <http://amamiyakarin.com/>

◆第2部 「公平な税金の集め方をみんなで考えてみよう」

講 師：内田 麻由子氏 税理士。公正な税制を求める市民連絡会 税金カフェ担当

著書に『誰も教えてくれなかった「ふつうのお宅」の相続対策ABC』他多数

◆会場：キイトス茶房 <http://kiitosryo.blog46.fc2.com/> 新宿区笹筒町 25 野吾ビル 2F TEL 03-5206-6657
大江戸線「牛込神楽坂」A1 出口徒歩1分 東西線「神楽坂」2番出口徒歩5分

◆東京弁護士会主催 part24 「ヒーローたちのラブソディ」◆

主人公の少年は、会社経営者の父親と専業主婦の母親のもとで何不自由のない生活を送っていましたが、父親が交通事故に遭ってから家族の様相は一変してしまいます。

自分だけの意志や努力だけではどうにもならない現実を突きつけられたとき、主人公の少年は、他の人とは何か違う、その人といれば自分は変わるかもしれない、そう思える人を慕って、一緒に行動するようになります。そして、主人公の少年は、彼と一緒に犯罪を起こしてしまうのです。

少年が真に罪と向き合い、更生し、前向きに生きていくためには、何が必要なのでしょうか。

少年が、あがきもがきながらも成長するため、少年に、私たちに何ができるか、皆さんと一緒に考えていきます。

【日時】2017年8月19日（土）夜の部 17時開演（16時30分開場）

2017年8月20日（日）昼の部 13時開演（12時30分開場） 夜の部 17時開演（16時30分開場）

※8月20日（日）昼の部は、混雑が予想されます。

※各回開演の90分前より受付を開始いたします。

【場所】文京シビックホール（小ホール）東京都文京区春日 1-16-21 文京シビックセンター2F

【アクセス】東京メトロ 後樂園駅 丸ノ内線（4a・5番出口）、南北線（5番出口） 徒歩1分

都営地下鉄 春日駅 三田線・大江戸線（文京シビックセンター連絡口） 徒歩1分

JR 総武線 水道橋駅（東口） 徒歩9分

【参加費】入場無料、全席自由、各回先着300名 *予約は承っておりません。

満員となった場合には、ご入場をお断りさせていただく場合がございますが、予めご了承ください。

【制作】東京弁護士会子どもの人権と少年法に関する特別委員会

【出演】子どもたちと東京弁護士会の弁護士

【主催】主催:東京弁護士会【共催】文京区【後援】:文京区教育委員会

【協力】社会福祉法人カリヨン子どもセンター 【お問い合わせ】人権課 [TEL:03-3581-2205](tel:03-3581-2205)

◆「暮らしのグリーンフサポートみなと」主催◆

「いじめって何ですか？」～いじめに対する大人の認識を考える～

【日時】平成29年8月19日土曜日 14時より【費用】無料 【定員】100名

【場所】港区芝 ヒューマンぷらざ6階 体育館 東京都芝1丁目8-23

【後援】港区教育委員会 みなとチャイルドライン 一般社団法人 みなとこぞってネットワーク

【講師】プロフィールジェントルハートプロジェクト理事。

1998年、高校入学間もない一人娘をいじめによる自殺で失う。それをきっかけにいじめが社会の大きな問題であることを知り、いじめのない社会を目指し、全国にて講演活動行っている。講演回数は、1200回を超えている。ジェントルハートメッセージ展を同時開催する。

- 2007年11月「青少年問題に関する特別委員会」に於ける、フィルタリングに関する法規制成立の為、参考人として出席。
- 内閣府の依頼により、2010年度版「自殺対策白書」へ社会的な取り組みの報告として寄稿。
- 2012年7月22日NHK「日曜討論」で平野文部科学大臣、尾木直樹氏、国立教育政策研究所滝充氏と対談。
- 2012年8月6日衆議院「青少年問題に関する特別委員会」で陳述。
- 元文部科学省いじめ問題アドバイザー、滋賀県いじめ対策研究チーム委員。
- 2013年9月文部科学省「いじめ防止基本方針策定協議会」においてヒアリング。
- マスコミ出演、寄稿多数

◆「終末期がん患者さん・ご家族へのケア～より良い看取りの為に～」◆

聖ヨハネホスピス研究所主催講演会・研修会では、地域で働く医療・介護従事者を主な対象に、ホスピス緩和ケアの知識・技術・精神をより深めていただくことを目的に、研修会を主催します。

【日時】2017年8月20日（日） 13時30分～16時30分

【講師】山崎章郎 医師（ケアタウン小平クリニック院長／聖ヨハネホスピスケア研究所所長）

蛭田みどり 先生（ケアタウン小平訪問看護ステーション所長）

【場所】桜町病院 聖ヨハネホスピス棟 2階 研修室 【受講料】2,500円

【対象】ケアマネ・介護福祉士・ヘルパー・看護助手など介護職従事者

【定員】30名 先着順。定員になり次第締め切り。

【申し込み方法】以下の内容をご明記の上、FAXもしくは郵送にてお申込み下さい。（複数名でも可）

1) 氏名（ふりがな） 2) 住所 3) 電話・FAX番号 4) 事業所名

5) 職業（ケアマネの方は基礎資格も）受付後「受講証」をファックスもしくは郵送にてご返信いたします。

【お申込みFAX番号】 042-380-7826（24時間）

【お問い合わせ電話番号】 042-380-7820（平日火・木・金13時～17時）

◆中村 哲講演会のお知らせ◆

ハンセン病治療のためパキスタン北西部ペシャワールに赴任以来33年。アフガニスタン東部で、医療活動のかたわら1600本の井戸を掘り、相次ぐ戦乱と早魃で難民化した人々の帰還のために灌漑用水を拓いて「緑の大地計画」を進める中村哲医師。政治と自然の変化に翻弄されてきた人々がひらすら求める「平和な生活」への願い。「豊かさ」とは？「平和」とは？一緒に考えたいと思います。

●日 時：8月25日（金）受付18:00 開演18:30

●場 所：埼玉会館 大ホール（さいたま市浦和区高砂3-1-4） JR浦和駅西口徒歩6分

●入場券：前売り 1000円（中学生以上の学生500円）（当日1200円）

●お申込み&お問い合わせ：TEL&FAX 048-625-3962 ☞nami-san@hkg.odn.ne.jp

主催：中村哲講演会実行委員会（代表 菅生益郎） 連絡先：048-834-1298 ☞nami-san@hkg.odn.ne.jp

後援：埼玉県、埼玉県教育委員会、さいたま市、さいたま市教育委員会、テレ玉、朝日新聞さいたま総局、毎日新聞さいたま支局、東京新聞さいたま支局、埼玉新聞社、原爆の図・丸木美術館 ※子供も参加可能

★★★★編集後記★★★★7月2日、トークイベント「津島佑子の時代が始まる」石原燃 × 星野智幸 @ 青山ブックセンター。昨年の「ミシュカの森」ゲストの星野智幸さんと、作家、津島佑子の長女で劇作家の石原燃さんとのトークイベントに出かけました。小説家、太宰治と津島美知子の次女として知られる津島佑子は、一歳で父、太宰を、十二歳で兄を亡くし、結婚、離婚後、さらに息子を失いました。津島佑子の逝去後、一年経たない今、人文書院より「津島佑子コレクション」が編まれようとしています。

このコレクションの意味を「吹き荒れる言葉の暴力に、小説の言葉で戦い続けている。その言葉を使うのは私たち読者の役割だ。」と星野さんは語ります。

まず、「悲しみについて」がコレクション第一巻として刊行されました。

「1985年の春、その人は息子を失った。そして絶望の果てに、夢と記憶のあわいから、この「連作」を紡ぎはじめた。彼女は何を信じ、何に抗いつづけているのか。聞き届けられるべき、不滅の物語。(星野智幸) 一巻刊行にちなんで開催された星野さんと石原さんのトークイベントで印象的だったのは、石原さんが語る作家である母の姿。石原さんの「母はととも自己肯定感の強い人でした」との言葉でした。

巻末におさめられた、石原燃さんの解説「人の声、母の声」の一節を引けば、

「孤独を怖れるかぎり、あなたは这个世界に溢れている言葉に翻弄され続ける。やめなさい、そんなことは、もう」「あなたを笑う以外に、なんの目的もない人の言葉に身を浸していたら、あなたは一生薄ら笑いを浮かべて着替え続けることになる。这个世界には静寂のなかでしか聞こえない言葉がある。孤独や喪失を怖れないで」。

世間から差し出される悲しみのあり様に抗う作家のエネルギーが、文字となって漣のように繰り返し、読むものに訪れます。おさまらないうねり。

「私はたった今も、悲しみを知らないままでいる。大体、息子があちこちに生きていたということを知っていながら、どうして悲しむ必要があるだろう。小さな粒状の息子は私に日々、喜びを与えてくれているのだ。」こんな風に悲しみをうけとめられるだろうか・・・思う還暦の朱夏です。 「ミシュカの森」入江杏

★★★★

講演会や講座、イベントの情報をお持ちの方はお寄せ下さい。なお「カレンダー」に掲載の一部の催しについては、お出かけの前に、主催団体のHP、FB、Twなどで調べてからお出かけを。書籍や映画などの推薦、投稿も大歓迎です。頂いた記事を並べているだけで、ミシュカの森関連記事以外は、皆様からの投稿が中心の会報です。今回はたくさんの方々の記事をお送り頂きまして、ありがとうございました。

(編集担当「ミシュカの森」 入江 杏)

★★★★

会報に関する連絡先：メールで入江まで ANA71805@nifty.com

電話の場合：関根まで 090-9146-6667